

# 2017年度 自己点検・評価【経済学研究科】

C票

## <目標、行動計画>進捗確認シート

提出日：2018年2月22日

### 2021年度に向けた教育研究目標

責任者	経済学研究科委員長	作成部局	経済学研究科
-----	-----------	------	--------

#### 【A票：教育研究目標1】

(タイトル)

規模に応じた教育、研究支援体制を再構築する。

(狙い内容)

大学院生の人数が少ないことを利用して、履修者数や履修者の個々のニーズに応じた授業を提供できるよう、カリキュラム体制を改善する。また、研究職志望の大学院生に対して、学外、とくに海外での研究報告の支援を提供する。

#### 1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)

少ない在籍者数を前提に、履修者の個々のニーズに応じた授業を提供できるカリキュラム体制の構築、研究職志望の大学院生の学外や海外での研究報告を支援する体制の構築

#### 2. 達成度評価

評価指標	カリキュラム改革の進捗度合い 国内外研究報告に対する資金助成制度の拡充度合い	評価尺度	A：カリキュラム改革、研究支援拡充の実行 B：改革、拡充案の作成と承認 C：WGの立ち上げ D：現状維持
------	---	------	---

#### 3. 年度毎の目標値

		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
2016年度 自己点検・評価時 点		D 現状維持	C WGの発足が承認される (実績)	C	B	B	B	A
2017年度 進捗状況 & 今後の 目標値	評価 尺度： A～D	D	C	実績	C			
	見込・ 実績・ 目標 (値又は 状況)	現状維持	WGの発足が承認される (実績)		WGの立ち上げ			

#### 【2017年度の進捗状況について】

カリキュラム改革および研究支援拡充のためのWG(2016年度に立ち上げ)においてカリキュラムおよび研究支援の拡充について検討中である。支援拡充については学会参加費の補助に関する案の作成と承認が行われ、さらなる拡充の可能性を検討している。カリキュラムに関しては、人数が減少してきていることを踏まえ、大学院の将来像を再検討するとともに、ニーズに合ったカリキュラムの検討を進める必要がある。なお、院生数や専攻分野の変動が大きく、研究報告数などを教育研究目標1の指標とすることは難しく、指標は当初の計画のままとした。

行動計画① WG(2016年度設置)において、経済学研究科が果たすべき役割とともに研究科へのニーズを踏まえたカリキュラム改革案を早急に作成する必要がある。

行動計画②大学院生および研究員の学会での報告を奨励するために、本研究科では旅費および宿泊費を助成してきたが、学会参加費についても助成することを提案し、承認された。助成額等について今後さらに検討を加えることが望まれる。

### 2017年度の取組み状況の確認

2017年度の取組みは、当初の目標どおりに進んでいるか？

→ はい・いいえ

#### <評価専門委員・第三者評価結果> 2017年12月22日公示

- ・ 目標を「規模に応じた教育、研究支援体制を再構築する」とされています。どのような成果をえるか、という観点から目標を設定することが望まれます。(A)
- ・ ワーキンググループの立ち上げ、検討ではなく、具体的な実施策の記述が望まれます。その上で教育研究目標のアウトカムにどうつながってくるのかの記述が期待されます。(B)
- ・ 大学院生支援のための検討が研究科内で進んでいることが窺えます。全学的に検討が進められている大学院充実のための施策とも連動しつつ、早急な支援体制の再構築が望まれます。(D)
- ・ 適切に自己評価が行われています。(E)
- ・ 教育研究目標と行動計画の評価指標が同一ですが、教育研究目標の指標としては、院生の研究報告数など、当該行動計画実施による成果を評価することが望まれます。
- ・ 行動計画②について評価に応じた実績の記述が求められます。(G)
- ・ 大学院の活性化は、経済学研究科のみに留まらず全学的な課題ですので、学内の各部局と連携を図りながら、引き続き取組みを進めていただくことを期待します。(H)
- ・ 目標に向けて今後の進展が期待されます。(I)
- ・ 順調に進捗しており、評価できます。(J)

**【A票:教育研究目標2】**

(タイトル)

国際的に活躍する専門知識を備えた職業人を養成するため、アカデミズムと実務の融合を目指す多様なコースメニューを用意する。

(狙い内容)

経済学の専門知識を備え国際的な活躍する高度職業人を養成するために、国連・外交コースを履修する制度を整備する。前期課程は2年しかないので、国連・外交コース履修準備のために学部教育との連携を図る。

**1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)**

修士号修得後に、国際機関で働く高度な学生を、1名程度修了させる。

**2. 達成度評価**

<b>評価指標</b>	国連・外交コース修了者数と国際機関への就職内定者数	<b>評価尺度</b>	A : 1名以上の国際機関就職内定者 B : 1名以上の国連・外交コース修了者 C : 1名以上の国連・外交コース履修者 D : コース未設定あるいは履修者なし
-------------	---------------------------	-------------	---

**3. 年度毎の目標値**

		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
2016年度 自己点検・評価時 点		D コース未設定	D コース設定したが履修者 なし(実績)	D	C	C	B	B
2017年度 進捗状況 & 今後の 目標値	評価 尺度: A~D	D	D	実績	D			
	見込・ 実績・ 目標 (値又は 状況)	コース未設定	コース設定したが履修者 なし(実績)		コース設定したが 履修者なし(実績)			

**【2017年度の進捗状況について】**

国連・外交コースの履修者は2017年度も0名であった。国連・外交コースがまだ広く認知されていないことが履修者がいない最も大きな要因である。また国際機関で働くための専門知識のうち、経済学研究科で習得できるものがどの程度あるのかについての認知も非常に低い。以上からホームページやパンフレット・冊子による情報提供を行うことが早急に必要である。また教育研究目標1で示されたカリキュラム改革と研究支援拡充に沿った形で、国連・外交コースにおいてもカリキュラム改革と研究支援拡充を行う必要がある。こういった背景から、広報活動の拡充を前提とした上で、行動計画を変えることを検討したが、現状の進捗状態を踏まえ指標は当初の計画のままとした。

**2017年度の取組み状況の確認**

2017年度の取組みは、当初の目標どおりに進んでいるか？ → **はい**・いいえ

**<評価専門委員・第三者評価結果> 2017年12月22日公示**

- ・ 前回の第三者評価結果にもありますが、目標と行動計画の評価指標が同じになっています。目標あるいは行動計画の評価指標のいずれかを改めることが期待されます。(A)
- ・ 今年度は履修者なしであったことについて、国連外交コースの認知だけが原因なのかの検討が求められます。来年度の実績につながる具体的な行動計画の策定が期待されます。(B)
- ・ 国連・外交コースの難しさが窺えます。(D)
- ・ 適切に自己評価が行われています。今後の進展が期待されます。(E)
- ・ 国連・外交コース履修者、修了者を輩出するための取り組みを、広報活動を拡充すること前提に検討されるということですが、具体的な取り組みの検討が待たれます。(F)
- ・ 教育研究目標の達成に向けて、広報活動の拡充など新たな行動計画の立案が期待されます。(G)
- ・ 目標に向けて今後の進捗が期待されます。(I)

**【A票:教育研究目標3】**

(タイトル)

対外的な研究成果の発信に努め、教育へのフィードバックを含め、研究成果を社会に還元し寄与していく研究科を目指す。

(狙い内容)

教員による研究活動を活性化し、社会へその成果を還元していくために、学術誌、ディスカッションペーパー、セミナー、コンファレンスなどにおける研究発信に加え、研究科ホームページなどICTを利用した情報発信を充実させていく。特にグローバル化が進むなかで、英語での情報発信を増やしていく。

**1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)**

学術誌、ディスカッションペーパー、セミナー、コンファレンスなどにおける研究発信をこれまで以上に積極的に進める。また、セミナー、コンファレンスなどの開催も積極的に行うことで研究交流を促進し、同時に研究成果の発信に努める。具体的には、掲載論文数の増加、掲載学術誌の水準の向上、セミナー、コンファレンスなどの開催の頻度の向上が挙げられる。

**2. 達成度評価**

<b>評価指標</b>	発信できる研究成果としてのディスカッションペーパー発行数と経済学セミナーの開催回数	<b>評価尺度</b>	A：行動計画①②どちらもA B：行動計画①②どちらもB C：行動計画①②どちらもC D：それ以外
-------------	---	-------------	---

**3. 年度毎の目標値**

		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
2016年度 自己点検・評価時 点		D 行動計画①②どちらもD	D 行動計画②のみCだが ①はD(実績)	C	B	B	A	A
2017年度 進捗状況 & 今後の 目標値	評価 尺度: A~D	D	D	見込み	C			
	見込 実績・ 目標 (値又は 状況)	行動計画①②どちらもD	行動計画②のみCだが ①はD(実績)	見込み	行動計画①D評価 行動計画②B評価			

**【2017年度の進捗状況について】**

2017年度春学期終了時点でのディスカッションペーパーの本数は6本であり、前年度同時期の4本に比べ増加傾向にあるといえる。また経済学セミナーの開催回数についても8回と、前年度同時期の4回に比べ増えている。

**2017年度の取組み状況の確認**

2017年度の取組みは、当初の目標どおりに進んでいるか？

→  はい・  いいえ

**<評価専門委員・第三者評価結果> 2017年12月22日公示**

- ・ディスカッションペーパーの発行数が増加傾向にあることは評価できます。(A)
- ・学部の行動計画①②と同じですが、学部(学部生)と研究科(大学院生)は別に目標設定する必要があります。(C)
- ・適切に自己評価が行われています。(E)
- ・教育研究目標の実績が現状の評価尺度では適切に判断できていない。評価尺度の見直しが必要です。
- ・教育研究目標と行動計画の評価指標が同一ですが、行動計画では教育研究目標を達成するために何をするのかを立案し、その進捗を評価することが求められます。(G)
- ・研究発信(ディスカッションペーパーの発行数)について、現状に則したかたちで目標が引き下げられていますが、研究発信は経済学部/経済学研究科に限らず大学全体として大きな課題ですので、今後精力的な取組みに期待したいと思います。(H)
- ・目標に向けて今後の進捗が期待されます。(I)